

アスパラガスのL級以上の収量を増やす整枝法

井上勝広・居村正博¹⁾
(長崎県総合農林試験場・¹⁾ 東北農業改良普及センター)

Katsuhiko Inoue and Masahiro Imura :
Effect of Pruning Methods of Asparagus Stem for Increasing Yield more than L Grade

アスパラガスの半促成長期どり栽培において、高単価階級であるL級以上の収量増大と光環境改善による着色促進のために、下枝除去や摘心法を改善する整枝法を検討した。

1. 材料および方法

アスパラガスの半促成長期どり栽培において、L級を中心に畦1 m 当たり11本程度立茎して、摘心と下枝除去の高さを120cm-50cm, 120cm-70cm, 140-50cm, 140-70cm, 140-90cm, 160c-50m, 放任-50cm区を設け、規格別に収量調査を行った。

2. 結果および考察

1) 下枝除去の高さ

整枝法と収量は第1表に示すとおりである。光環境改善のため、下枝を除去する場合、120cmの主枝摘心では50cm, 140cm摘心では70cmより上の一次側枝を除去すると収量が低下した。

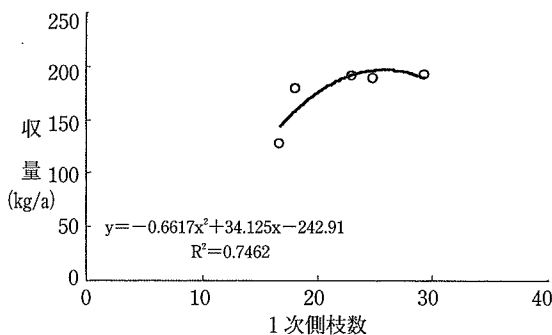
第1表 整枝法と収量 (a 当たり)

整枝法	1次側枝数 (本)	総収量			階級別割合 (%)					
		夏芽 (kg)	春芽 (kg)	合計 (kg)	夏芽			春芽		
					(L以上)	(M)	(S)	(L以上)	(M)	(S)
120-50	23.0	191	137	328	67	26	7	86	10	4
120-70	18.1	179	94	273	64	26	10	77	17	6
140-50	29.3	192	151	343	74	20	6	87	11	3
140-70	24.8	189	131	320	68	24	8	79	16	5
140-90	16.8	128	86	214	61	28	11	74	20	6
有意差	*	*	*	*						
L.s.d(5%)	6.1	40	26	48						

注) a) 3年生株, 「ウェルカム」, 黒ボク土。
b) 夏芽は2000年5~10月, 春芽は2001年2~4月収穫。
c) L級(茎径11~12mm)を11本/m立茎。
d) 120-50: 120cm摘心で50cm以下の下枝除去, 以下同様。
e) *は危険率5%で有意差あり。

2) 一次側枝数と夏芽収量

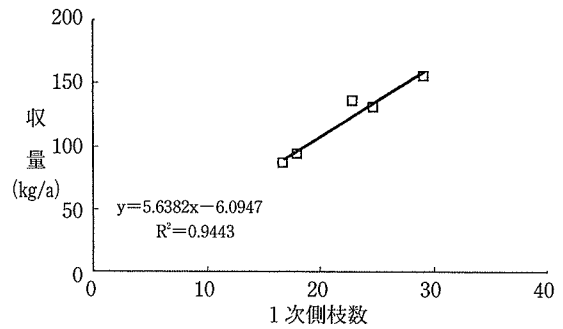
一次側枝数と夏芽収量は第1図のとおりで、夏芽収量に有効な一次側枝数としては23本程度だった。実際には30本以上では過繁茂となり病害と光線不足による収量および品質低下となる。



第1図 一次側枝数と夏芽収量

3) 一次側枝数と春芽収量

一次側枝数と春芽収量は第2図のとおりで、翌年の春芽収量は、50cm以上の一次側枝を除去しない方が収量が多かった。

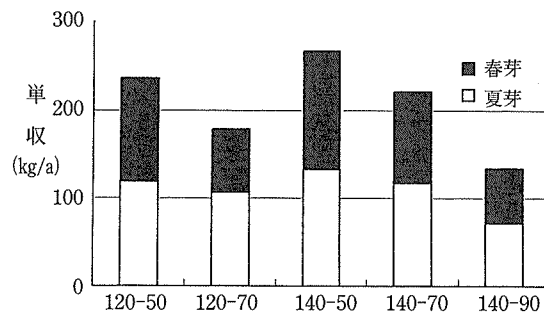


第2図 一次側枝数と春芽収量

4) 主枝摘心の位置

摘心位置については、第1表に示すように120cmより140cmが、高単価階級であるL級以上の階級割合が高く、一次側枝数を確保できるため翌年の春芽の収量が増加した。

整枝法とL級以上の収量は第3図のとおりで、L級以上の収量についても階級別割合と同様の傾向となった。



第3図 整枝法とL級以上の収量

さらに140cm以上の摘心位置と収量は第2表のとおりで140cmより高い位置での摘心や放任は翌年の春芽の収量が多いが、収穫期間の長い夏芽の収量は少なかった。

第2表 摘心位置と収量 (a 当たり kg, 万円)

摘心位置	総収量			粗収益		
	夏芽	春芽	合計	夏芽	春芽	合計
140cm	233	89	322	19	10	29
160cm	201	90	291	16	10	26
放任	164	117	281	13	13	26

注) a) 5年生株, 「ウェルカム」, 黒ボク土。
b) 夏芽は2002年5~10月, 春芽は2003年2~3月収穫。
c) L級(茎径11~12mm)を10本/m立茎。

以上のことから、アスパラガスの長期どり栽培では、親茎を140cmで摘心して50cm以下の一次側枝を除去し、23本程度の一次側枝を確保する整枝法と9月以降は側枝を除去しないことにより、夏芽および翌年の春芽収量が増加するとともに、高単価階級であるL級以上の収量が増大することが明らかになった。